

金メダルはアナタのものではない

武田 砂鉄

菅義偉首相は八月六日、広島
の平和記念公園で行われた平和
記念式典で、用意されていた挨拶
文の一部を読み飛ばし、その
後に開かれた会見で「これまで
のところ五輪が感染拡大につな
がっているの考え方はしてい
ない」と述べた。「GOTOキ
ャンペーン」の時の言い分と全
く同じだが、「感染拡大につな
がっていない」と立証できたわ
けでもない。七月一日に収録さ
れた『月刊Handa』20
21年9月号のインタビュー
で、菅首相は「大会期間中、日
本国内の感染拡大を抑え、大会
終了後の感染拡大防止にもつな
げていくことが不可欠です」と
述べていた。つまり、五輪で感
染拡大することはない、ではな
く、開催期間中の感染拡大を抑

える、と告知していた。で、開
催期間中の感染拡大を抑えられ
なかった。この責任をいかに負
うのだろうか。まさか、負わない
のだろうか。

「うまくいったらオレのおか
げ、うまくいかなかったらオレ
のせいではない」、この態度は
五輪招致から開催に至るまで、
五輪にすぎず為政者に通底する

招致から開催まで

態度だった。サラダバーに出向
き、鮮度の高い「感動」「涙」
「勇気」をいくつかピックアップ
プして、その小皿を見せて、
「ほら、どうです、やってよか
ったでしょう」というプレゼン
テーションをする。その後で
は、ありとあらゆる腐食した産
物が残されたままになってい
る。一部だけが肥える大金が動
き、その影で人々の生活が傷
み、そして、感染症が広がっ
た。金メダルを噛んだ市長に対
して、「金メダルはアナタのも
のではない」と多くの人が思っ

た。だが、功績を自分のものに
しようと試みる、あのおぞまし
い力学は、あそこまで直接的で
はないにせよ、あちこちの為政
者が繰り返したことはなかつ
たか。

菅首相は七月二十五日、日本
人選手として大会で初めて金メ
ダルを獲得した選手に電話をか
けた。その動画を見ると、選手

五輪

2

にぶんのごりん

東京五輪で日本勢初の金メダルを獲得
した選手を電話で祝福する菅首相。電
話機の横に紙が置かれている。7月25
日午前、首相公邸で(代表撮影)



東京五輪で日本勢初の金メダルを獲得
した選手を電話で祝福する菅首相。電
話機の横に紙が置かれている。7月25
日午前、首相公邸で(代表撮影)

との会話がほとんど成立してい
ない。気になって、首相官邸の
ウェブサイトを確認すると、
「お祝いの電話をかける菅総
理」とキャプションにある写真

検証を

には、電話の横に白い紙が置か
れている。選手との数分での電
話でさえ、カンニングペーパー
が必要なのだ。平和記念式典で
挨拶文を読み飛ばした際には、
原稿を貼り合わせるために使っ
た「のり」のせいでめくれない
状態になっていたから、という
言い訳が用意されたが、めくる
必要のない白い紙の場合、一方
的に読み上げてしまうようなの
だ。

政治が五輪を利用する。今に
始まったことではないが、今回
は、政治が五輪を切り札にして

強引に利用し続けた。「東京と
福島は二百五十キロ離れているの
で安全」(竹田恒和招致委員会
理事長・当時/二〇一三年九月
四日)と被災地を切り離したく
せに「復興五輪」を謳い、新型
コロナ感染拡大の収束が見込め
ないのに、前任の首相も今の首
相も「新型コロナウイルスに打ち勝った
証」としての五輪」と言い続け
た。嘘をつき、大風呂敷を広
げ、人のせいにして、美味しい
ところだけを食べて、逃げよう
としている。選手に近づき、選
手が作り上げた成果やムード
を、噛むように、舐めるよう
に、なんとかかしてオレたちのも
のにしようとした。

選手のメダルにまとわりつい
た不純物を消毒するためには、
「終わって良かった」ではな
く、残された問題を改めて提示
し、問わなければいけない。一
九九八年の長野五輪では、五輪
招致委員会の会計帳簿が開催決
定後に焼却されていた。この数
年、この国の為政者が悪事を隠
そうとする腕力は金メダル級
だ。紙を黒く塗ったり、捨てた
と言いつ張りたり、忘れたとどば
けたり、部下のせいにしたたりす
る。競技が終わろうとも、招致
決定から開催まで、どんなプロ
セスで何が行われてきたのか、
今度はこちらから、五輪を「パ
ブル」やらで包む必要がある。
(ただだ・さてつ＝ライター)